

施策評価シート(令和3年度実施施策)

総合計画 体系	政策№	1	政策名	自然に配慮した環境づくり	施策主管課	町民税務課
	施策№	1-1	施策名	自然・生活環境の保全	施策主管 課長名	猪俣 利幸
関係課	町民税務課					

1. 施策の目的

対 象	A 町域	意 図	A 人と自然の共生環境がさらに良好になっている
	B 地域		B 環境にやさしいライフスタイルの輪が広がっている
	C 町民		C 資源を大切に、ごみを削減する意識が高まっている

2. 成果指標

指標名		単位	現状値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
A 2・3年前と比べて自然環境が良くなっていると感じている町民の割合（増加）（現状値：H28-30平均）		%	59.3	60.5 ----- 59.1	60.7 -----	60.8 -----	60.9 -----	61.1 -----
B 環境に気がついた生活をしている町民の割合（増加）（現状値：H28-30平均）		%	80.3	80.7 ----- 79.6	81 -----	81.3 -----	81.6 -----	81.9 -----
C 町から排出される町民一人あたりの生活系一般廃棄物の量（資源ごみを除く）（減少）（現状値：H30時点）		k g /人	267	239 ----- 238	234 -----	230 -----	225 -----	222 -----
				-----	-----	-----	-----	-----

3. 指標の分析（成果が向上した、またはしなかった理由）

コロナ禍以降、数値は低下傾向にある。コロナ禍では自宅での時間が長くなり、電気使用量の増加や家庭ごみの増加を感じながら、一方でメディアからの地球温暖化や自然災害、プラごみによる海洋汚染等の報道に、環境悪化が身近な問題と感じる方が増えた結果であろう。令和3年度は前年比6%上昇に転じたが、昨今は感染者数に変動があるものの落ち着きを見せており、山や川、公園に出掛ける機会が増え、自然の豊かさを感じることが出来るようになり、自然に配慮した生活を心がけようと意識する方が増えている結果、上昇につながったものと推察する。
目標値には達成していないが、前年度より2.2ポイント増加した。CO2排出量の削減に寄与する身近な取組として廃棄物の4 R運動を広報紙やホームページを通して呼びかけた。また、家庭ごみの排出量と資源ごみの回収率を、年度毎、月毎に比較できるよう毎月ホームページの更新を行った。環境問題への関心が高まってきている中、ごみ問題に関する情報を定期的にお知らせすることにより、問題意識から行動意識へと移行してきていると考えられる。
目標値を超える達成値であった。広報紙やホームページ、職員出前講座を通して、家庭ごみの排出削減や適正分別排出への意識が浸透してきている結果と考えられる。

4. 課題に対する取組（今年度重点的に取り組んだ課題）

・廃棄物減量に向けて、選別収集の目的であるごみの出し方の再確認と再認識を実践していただくように、広報紙等の媒体や出前講座による啓発活動を実施するとともに、ごみステーションからの情報発信を行った。 ・臭気に関する意見のあった箇所を福島県悪臭防止対策指針に基づき8月19日に三点比較式臭袋法測定を実施し、臭気指数は基準を下回る結果であった。

5. 次年度の方向性（施策の方向性と次年度以降重点的に取り組む課題）

残余容量が逼迫する最終処分場やCO2削減の課題に対し、焼却及び最終処分されるゴミの更なる減量化に向けて、分別排出と適正排出を徹底するため選別収集を継続し、広報・啓発活動により食品ロスの削減や生ごみの水切りを呼びかけ、容器包装廃棄物4 R運動を推進する。また、総排出量の5分の1を占める事業系一般廃棄物の分別排出と減量化に向けて、昨年実施した事業所ヒアリング結果を収集許可業者と共有し、対策を検討する。

6．施策を構成する事務事業（方向性と次年度以降重点的に取り組む主要な事業）

番号	事業通番	事務事業名	令和3年度決算額 (千円)	最終評価結果			主要事業
				成果の方向性	コストの方向性	今後の方向性	
1	5037	廃棄物減量対策事業	3,959	現状維持	現状維持	⑤現状維持	○
2	5430	廃棄物処分手業	262,712	現状維持	現状維持	⑤現状維持	
3	16742	生活環境保全事業	835	現状維持	現状維持	⑤現状維持	
4	16790	狂犬病及び犬猫等処理事業	528	現状維持	縮小	③効率性改善	
5	17708	電源立地地域対策交付金事業	8	評価対象外	評価対象外	評価対象外	